

映画祭プログラム

第一日目(12月12日・土) 会場:純愛の聖地庵治・観光交流館

12:45～ 開場

13:00～ 学生映画部門入賞4作品上映

15:30～16:00 オンライントーク



□パネリスト
大津 一瑠
脚本家、大阪芸術大学・短期大学客員教授



□パネリスト
益田 祐美子
映画プロデューサー

16:15～16:40 ショートムービー部門入賞4作品上映

16:40～ 閉会

第二日目(12月13日・日) 会場:GET HALL

12:45～ 開場

13:00～ 開会式挨拶・各部門表彰式

13:45～ グランプリ作品上映

17:00～ オンライントークイベント



□パネリスト
大和田 廣樹
映画プロデューサー



□パネリスト
林海象
映画監督・脚本家
都造形大学芸術学部映画学科教授

17:30～ 閉会



「JCFスカラシップ制度」について

優秀な学生の自主映画監督を資金・技術・設備の面でバックアップし、に新作を製作する機会を与える制度です。第3回から発足し、今年に入賞監督を対象としています。

※第16回JCF学生映画祭スカラシップパートナー: TARGET HOLDINGS INC.

JCFスカラシップ制度の仕組み



JCF学生映画祭自体が、優秀なクリエイターをプロへとステップアップさせるステージとして機能し、オリジナルの「発想・育成のモデル」を提案します。

□一日目の会場
「純愛の聖地庵治・
観光交流館」
香川県高松市庵治町5824-4



□二日目の会場
「GET HALL」
香川県高松市南新町
1-4富田ビル5F



全国から学生映画が集結!

第16回 JCF学生映画祭 in 香川県高松市



高松プログラム 表彰式・受賞作品上映会・トークイベント

- 第一日目 □第二日目
□日時/2020年12月12日(土) 13:00～ □日時/2020年12月13日(日) 13:00～
□場所/「純愛の聖地庵治・観光交流館」 □場所/「GET HALL」
香川県高松市庵治町5824-4 香川県高松市南新町1-4富田ビル5F ゲットホール

主催 JCF学生映画祭実行委員会
制作運営 JCF学生映画祭運営事務局・The Japan Project
後援 香川県、高松市、四国新聞社、RNC西日本放送、TSCテレビせとうち、株式会社エフエム香川、KSB瀬戸内海放送、CMSケーブルメディア四国

www.jcf.jpn.com



16回目JCF学生映画祭の高松市での開催にあたって

「JCF学生映画祭」は、「世の中に貢献する才能の発掘・育成」をコンセプトとした今年で16回目を向かえる、歴史ある学生映画祭です。一過性のイベントで終わるのではなく、一貫して「才能の発掘と育成」を掲げてきたことで、多くの若者の注目と支持を集め、日本を代表するインディペンデント映画祭となりました。

第16回JCF学生映画祭は、新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮し、当初、オンラインのみでの開催を予定しておりましたが、各地で経済を含めた社会活動の回復を模索している中、withコロナの時代において、香川県・高松市・地元メディア・諸団体のご後援を賜り、社会経済活動とのバランスをとりながら感染拡大防止に努めつつ、開催することとなりました。

新型コロナウイルス感染症第三波の到来で益々感染予防が重要となる中、開催されるイベント等に関しては、登壇者のオンライン参加や、上映会場の短時間での換気等、十二分な対策を講じながら、12月12日、13日の両日、JCF学生映画祭として初の四国開催となる香川県高松市で、入賞作品8作品の上映、表彰式等を含むプログラムとして開催いたします。将来を担う世代である学生の作品を通じて、開催地である香川県、高松市はもとより、コロナ禍の日本に、少しでも元気を与えられることを目指して参ります。

第16回 JCF学生映画祭実行委員会

開催概要

名称	第16回JCF学生映画祭in 高松市
開催日	2020年12月12日(土)・12月13日(日)
開催場所	純愛の聖地庵治・観光交流館/GET HALL
主催	JCF学生映画祭実行委員会
実行委員兼審査員	高秀蘭(映画プロデューサー) 大和田 廣樹(映画プロデューサー) 太田 雅人(GETTIグループ代表・JCF学生映画祭ファウンダー)
審査員	林海象(映画監督・脚本家 京都造形大学芸術学部映画学科教授) 松井 久子(映画監督) 益田 祐美子(映画プロデューサー) 大津 一郎(脚本家 大阪芸術大学・短期大学客員教授) ※第16回JCF学生映画祭の審査は、実行委員長兼審査員の高秀蘭、実行委員兼審査員の大和田 廣樹、太田雅人と、審査員4名の7名で実施いたします。
事務局	JCF学生映画祭事務局、地域活性化大学
制作運営	JCF学生映画祭運営事務局・The Japan Project
後援	香川県、高松市、四国新聞社、RNC西日本放送、TSCテレビせとうち、株式会社エフエム香川、KSB瀬戸内海放送、CMSケーブルメディア四国
協力	NEW WAVE / ドリームキッド / TARGET Holdings



入賞作品一覧

学生映画部門



「クリスマス・グリーティング」 監督:西 遼太郎(佐賀大学)

ある国で内戦が起き、巨大な壁によって東西に分断された。インターネットは監視され、二国間で連絡を取り合おうとするものは処刑された。そこで、メッセージ動画を違法で配達する「メッセンジャー」と呼ばれる男が現れた。男は、流出を恐れてアナログテープに動画を保存し、それを運んだ。しかし、ある事件が起こり、動画は全世界に流出する。流出した動画に映っている人々や、男の運命は…



「黒に色を見る」 監督:升田天海(東京映画・俳優&放送芸術専門学校)

画家志望の青年、黒瀬広人は自分の表現が評価されないことに悩んでいた。ある日、黒瀬は扇風機にしている画材屋の倉庫で、佐倉 楚乃という普通の女子高生と出会う。こみの出合いをきっかけに、2人は自分の中にある物事のとらえ方をみつめなおすことになっていく。



「Sister」 監督:皆銭文哉(青山学院大学)

血の繋がった姉弟愛を描いたヒューマンラブストーリー。主人公の藤原優太は姉のさやかに対する恋愛感情に気付く。姉と言う最愛の人との同居生活に喜ぶ想いを告げられず苦悩する。優太は姉に想いを告げられないまま死んでしまい…



「儘ならぬ恋の目論見」 監督:小山和生(東北芸術工科大学)

ある大学に通う根暗な大学生Tは、図書室で文学部のマドンナS子に出会う。図書室の本を利用した暗号でS子に思いを伝えようとすると、果たして思いはつたわるのか。

ショートムービー部門



「ACCEPT」 監督:楊 翔安(武蔵野美術大学)

大切な人が亡くなってしまふ最後の瞬間。「ありがとう」という気持ちになった。いなくならないでほしい。押し付けられた深い悲しみから生まれた感情だった。全てを認め、死を受け入れる。悲痛と感謝の愛の形。



「SHADECOR PV」 監督:寺坂 瑠菜(関西学院大学)

関西学院大学プロジェクトマッピング制作団体のPVです。Are you happy now?の問いかけに happy now!!と笑顔で応える人々。ここでは誰もが元氣いっぱい happyになれるよ!というコンセプトを軸にしています。走り出したら自分の手で世界をキラキラ明るく変えていく、疾走感たっぷりの映像を楽しめるように工夫しました。観て下さる方が、少しでも happy な気分になりますように。



「私の好きなこと」 監督:福岡佐和子(日本大学)

新型コロナウイルスで私自身が隔った感覚を捉え直そうと言う思いで書いた作品です。主演のはまださつきと力を合わせリモートで制作しました。



「だれもない」 監督:平野汐音(名古屋学芸大学)

この作品は「おぼけ」を題材としました。「おぼけ」というものは本当にこわいものなのか。もし可愛い・養成的な存在だったらわたしたちの「おぼけ」に対するイメージもかわるのではないかと思ったのがこのさきひんを制作したきっかけです。実在する部屋に夜のライティングを行い、その壁面にプロジェクションされたアニメーションを撮影することで制作しました。

過去受賞監督の活躍

第2回大会グランプリ受賞	耶雲哉治監督 映画『暗黒女子』、映画『刀剣乱舞』
第5回大会グランプリ受賞	月川翔監督 映画『君は月夜に光り輝く』、映画『君の隣を食いたい』
第7回大会グランプリ受賞	清水艶監督 映画『灰色の鳥』
第13回大会グランプリ受賞	相馬寿樹監督 ABC・EX「声ガール」



開催に向けてのメッセージ

はじめに



実行委員長 高 秀蘭 (映画プロデューサー)

「JCF学生映画祭」は、「世の中に貢献する才能の発掘・育成」をコンセプトとした今回で16回目を向かえる、歴史ある学生映画祭です。

一過性のイベントで終わるのではなく、一貫して「才能の発掘と 育成」を掲げてきたことで、多くの若者の注目と支持を集め、日本を代表するインディペンデント映画祭となりました。

JCF学生映画祭は、「若者の夢を引き受けるステージ」をつくるという観点から、若者の才能や努力を引き出し、育成するステージを創造していきます。

プロフィール

台湾テレビのプロデューサーとしてキャリアを積み、1986年ニューウエーブを設立。以降、中国語圏の優れた監督の製作・配給に関わってきた。カンヌ映画祭グランプリを受賞した台湾の侯孝賢（ホウ・シャオ・シェン）監督の「非常都市」（1988年）、「戲夢人生」（1991年）のプロデュースを始め、中国の張芸謀（チャン・イーモウ）監督の「紅夢」（1991年）、「活着」（上海ルーजू）（1995年）、「何平」（ハー・ピン）監督の「哀愁花火」のポストプロダクションを務めた。陳凱歌（チェン・カイコー）監督とは「さらば、わが愛／覇王別姫」（1993年／カンヌ映画祭パルムドール受賞）、「花の影」（1996年）「始皇帝暗殺」（1998年）、「鳳凰が愛」（2008年）、「新宿インシデント」（2009年）、「エヴェレスト 神々の山嶺」（2016）、「空海-KU-KAI-美しき大姫の謎」（2018）、「キングダム」（2019）のプロデュースを手掛ける。

開催に向けてのメッセージ



香川県知事 浜田 恵造

「第16回 JCF学生映画祭」が盛大に開催されますことを、心からお慶びいたします。この映画祭は、1999年以来、映像文化の次代を担う若者の育成を期して全国各地で開催されています。16回目となる今回は、オンライン開催と香川県での実会場における開催とを融合させ、映像制作を志す若者が一線で活躍されているクリエイターの皆様と交流を深められると伺っており、高実行委員長をはじめ関係の皆様のご熱意とご尽力に敬意を表します。県では、「アート県の魅力を高める」ことを重点施策の一つに掲げており、文化芸術を育む環境の整備や人材の育成に取り組むほか、本県の特徴ある文化芸術活動を活かした地域づくりを推進することとしています。こうした中、コロナ禍にも負けない皆様方の活動は、誠に心強い限りであり、今後とも、香川県の文化芸術の振興にご支援、ご協力をいただきますようお願いいたします。映画祭のご成功と、皆様の一層のご活躍並びにご来場の皆様のご健勝と交通安全をお祈りいたします。



高松市長 大西 秀人

この度、四国で初めてとなる「第16回 JCF 学生映画祭」が、ここ「瀬戸の都・高松」において、盛大に開催されますこと、心から喜び申し上げますとともに、御来高いただきました皆様方を、42万高松市民を代表しまして、心から歓迎申し上げます。また、「世の中に貢献する才能の発掘・育成を目的とした学生映画祭」をコンセプトに、1999年から、映像制作を志す若者が力を発揮できる場を全国に設けられているその御努力と熱意に、深く敬意を表します。ここ高松でも、若き才能が発掘されることを大いに期待しております。さて、今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、あらゆる文化芸術活動が大きな制約を受ける大変厳しい状況となっております。本市におきましても、「高松市文化芸術振興条例」の理念に基づき、どのような状況下であっても文化芸術の灯を絶やさないよう、各種施策・事業の推進に積極的に取り組んでいるところでございます。どうか皆様方におかれましては、今後とも、映像制作を通じて、文化芸術の振興や文化交流の促進に、なご一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。最後に、本映画祭と、関係者の皆様方の今後ますますの御発展・御活躍並びに御観覧の皆様の御健勝・御多幸を祈念申し上げます、私からの御挨拶といたします。

実行委員・審査員



実行委員兼審査員

映画プロデューサー 大和田 廣樹

大学卒業後、メディア関連のコンサルタント業務を経て、96年に株式会社インターネット総合研究所（IRI）の設立に参画。同社は、99年に東京証券取引所マザーズ市場の第1号として上場する。02年、IRIのデータセンター小売会社の株式会社ブロードバンドタワー（BBT）の社長に就任。03年ブロードバンドユーザー向けのドラマを制作するネットシネマ事業を開始し、「D-5 Project」として林海象監督と「探偵事務所5」シリーズを共同プロデューサーする。また、映画プロデューサーとしても「もんしゅん」(06)、「松ノ根乱射事件」(06)、「ドルフィンブルーフジ、もういちど宙へ」(07)、「寄子」(08)、「こせれ」(09)、「THECODE/暗号」(09)日台合作映画「南風」(14)、「ディストラクション・ベイビーズ」(16)などを手掛けている。「癒しのこころみ〜自分を好きになる方法〜」は、2020年7月に公開。年末には、初の長編小説「氷壁星のカルデラ」が幻冬舎から発売予定である。



実行委員兼審査員

JCF学生映画祭フアウンダー 太田 雅人

1965年大阪生まれ。大阪府立大手前高校卒。関西学院大学経済学部卒。（株）GETTI代表取締役。1986年、大学在学中に企画やマーケティングの学生ビジネス集団を設立し、大学卒業後にNECを経て1992年に後輩達と株式会社ゲッティとして法人化。以降、大手企業クライアントや自治体のブランディングや活性化支援を行う傍らメディア開発、事業開発、事業投資を行う事業会社を設立。創業30周年を機に2016年医療事業に参入し、東京大学医学部附属病院とのiPS細胞の共同研究を行う。（株）神戸医療特区内One Medicine, One Healthセンターを設立。現在理事長。現在はブランディング事業、マーケティング事業、建築デザイン事業、アパレル事業、動物病院運営事業、iPS細胞の研究のメディカル事業の6つの事業領域を行うGETTIグループの代表。



審査員

映画監督・脚本家 京都造形大学芸術学部映画学科教授 林海象

1986年にモノクロサイレント映画という真色の作品「夢見るように眠りたい」でデビュー「私立探偵 濱マイク」シリーズ、12月11日公開「BOLT」は、開催地香川県高松市美術館にて現代美術家ヤノベケンジ氏が発表した巨大セットを使用してロケを行った。



審査員

映画監督 松井 久子

「ユキエ」折り鶴で延々200万人の観客動員を果たし、2010年彫刻家イサム・ノグチの母を描いた「レオニー」、2016年「不思議なクニの魔法」



審査員

映画プロデューサー 益田 祐美子

2003年日本イラン合作映画「風の威風」製作から16年で11本の映画を製作。2009年「築城せよ」2014年「瀬戸内海賊物語」2019年「ローキンの見た寝」等多数。著書「3億5千万円を集めた主婦は、世界をつなぐ映画プロデューサー」等。2021年に新作映画2本公開し2本作り予定。



審査員

脚本家、大阪芸術大学・短期大学客員教授 大津 一瑠

Vシネマ「新・第三の極道」、テレビ「柳生一徹の陰謀」必殺仕事人」等。